

「日本の観光地」に高い関心

アウンコンサルティング「アジア10ヵ国の親日度調査」

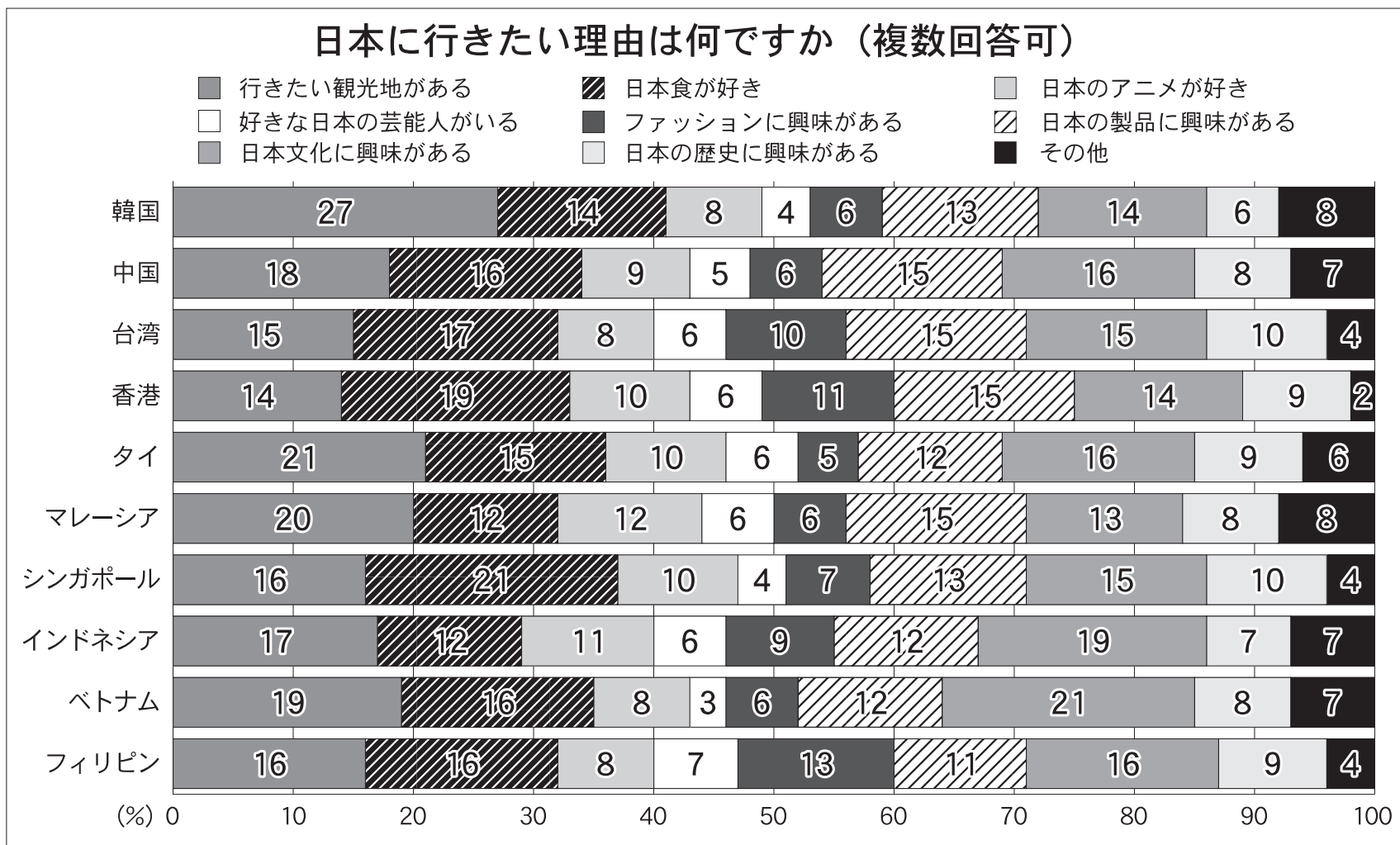
東南アジアの人の9割近くが訪日旅行を希望

調査データ

検索エンジンマーケティングや多言語ウェブ制作、海外向けプロモーションなど、グローバルマーケティングに関するコンサルティングを行うアウンコンサルティング（東京都文京区）は8月26日、「アジア10カ国（国と地域）の親日度調査」の結果を公表した。

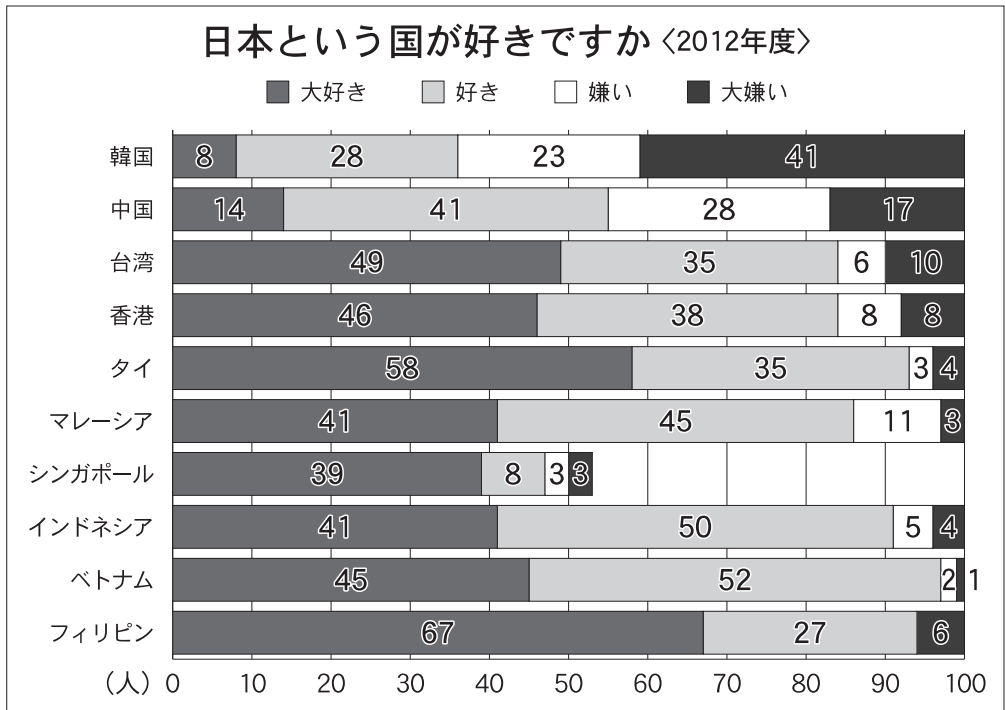
調査では、東南アジアを中心に日本の国や国民に親近感を持つ人が多いことが改めて裏付けられた。さらに、9割近い人が日本へ旅行に行くことを希望しており、観光地としての日本の注目度が高いことが分かった。

調査は8月4～14日、各国・地域100人の18歳以上の男女を対象にインターネットで実施した。（2012年度の調査は11月）



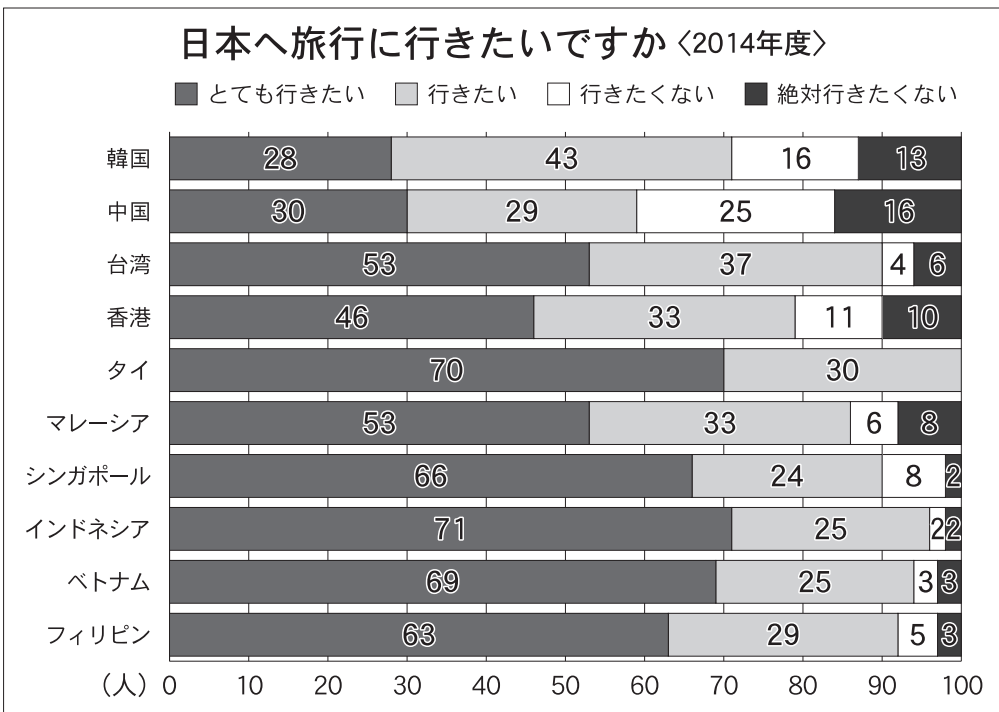
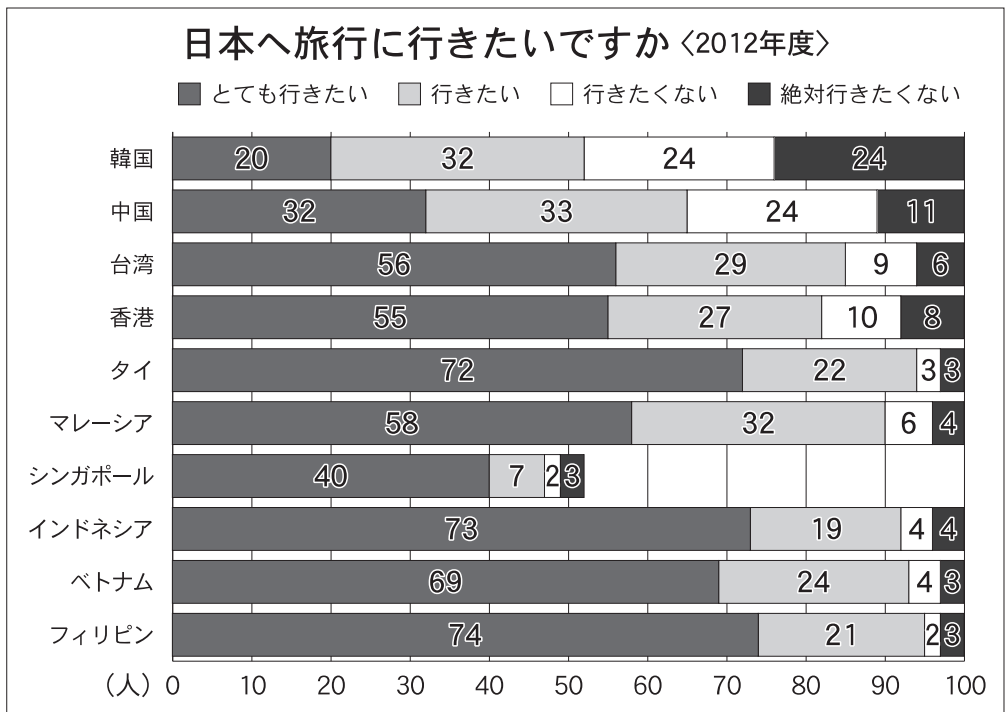
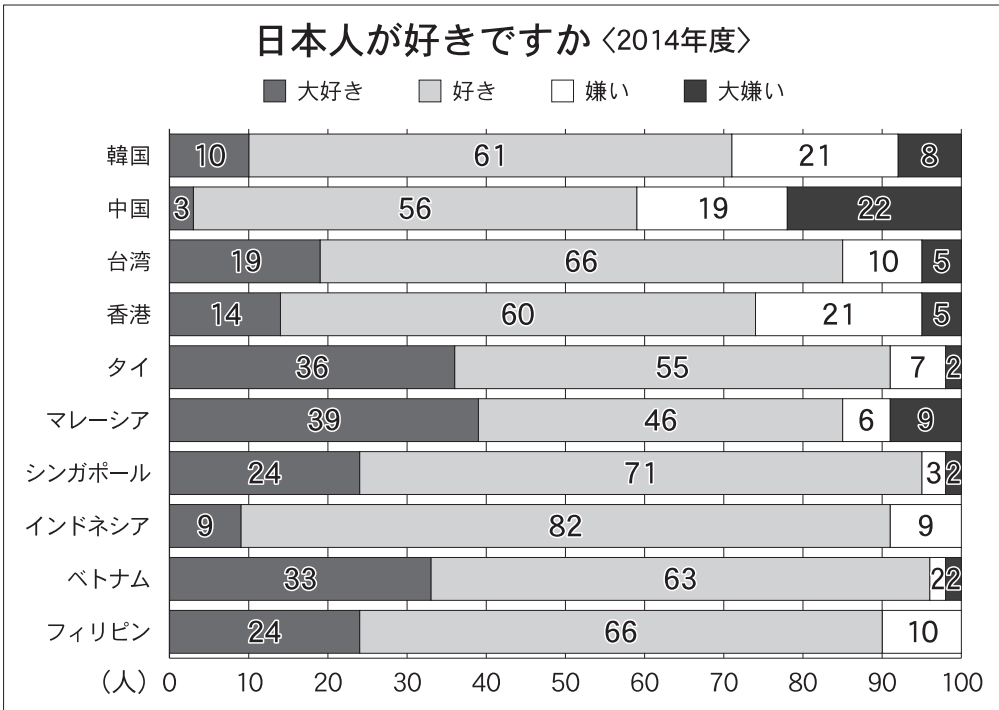
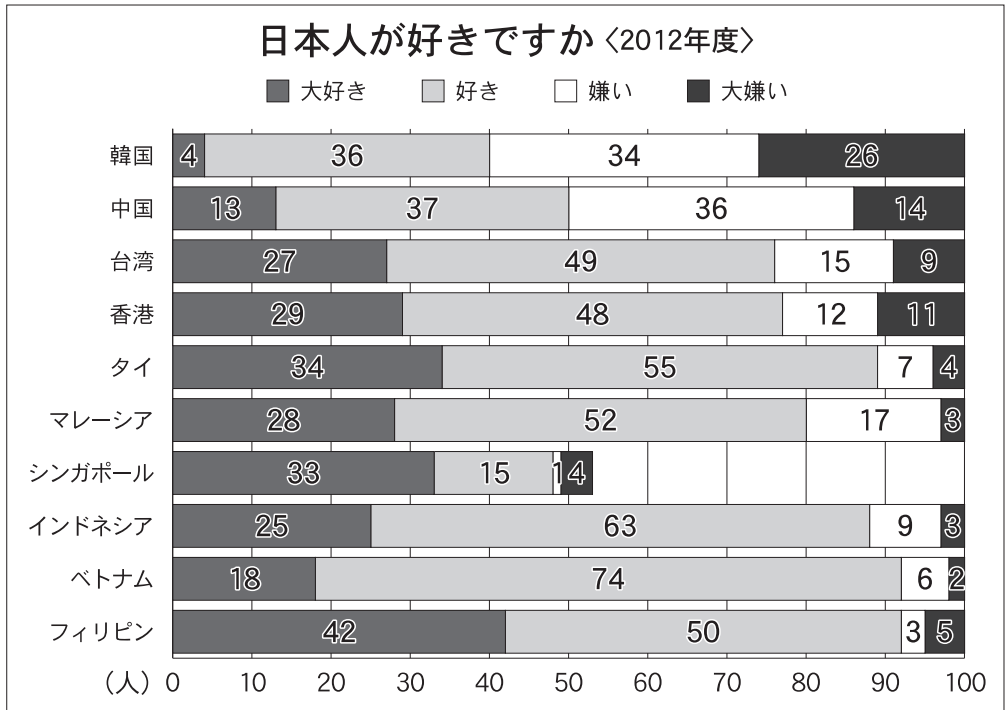
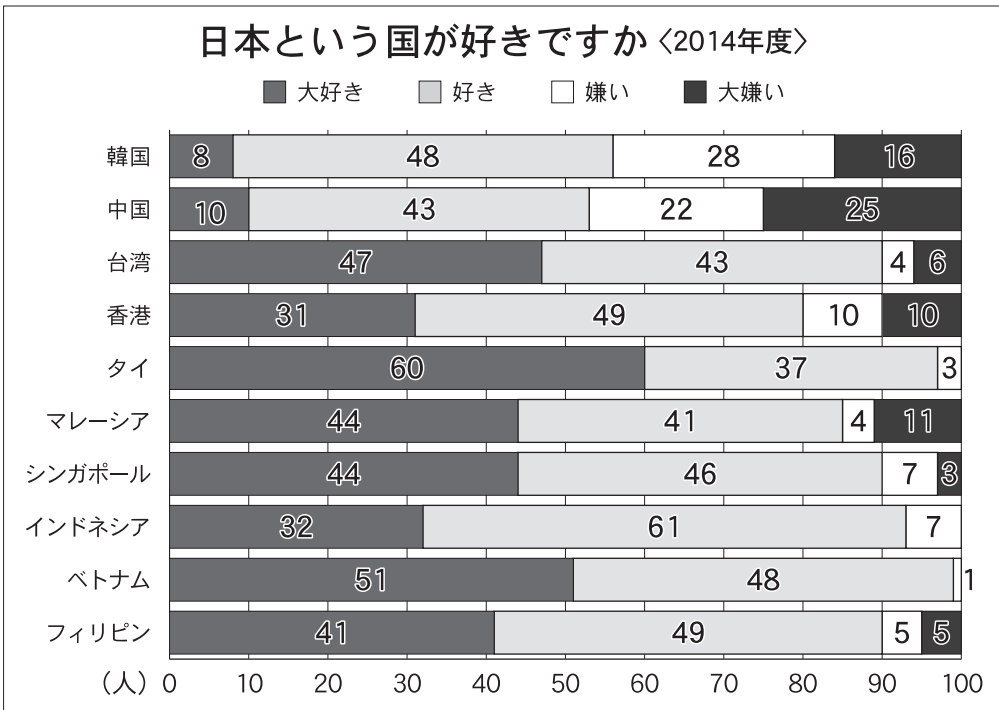
■日本に行きたい理由

回答を九つのカテゴリーに分け、複数回答可としてアンケートを取った。一番回答数が多かったのは「行きたい観光地がある」で10カ国中5カ国で1位だった。2位以下は「日本食が好き」「日本文化に興味がある」「日本の製品に興味がある」が続いた。自由回答では「スキーをしたい」「サクラが見たい」「札幌の雪まつりを見てみたい」「日本の鉄道に興味がある」などがあった。



■日本という国・日本人について

台湾や東南アジア諸国では好意的な回答が多数を占めているが、中国と韓国では嫌い・大嫌いの回答が他の国・地域よりも多くなっている。韓国を見ると、12年の調査では、日本という国・日本人の双方について「嫌い」「大嫌い」が過半数に達していた。しかし、14年度の調査では、それぞれ好意的な回答の割合が上昇した。中国は、日本人に対する感情が、12年度に比べて14年度では改善されたことが分かった。



■日本への旅行について

タイでは12年度の調査では「とても行きたい」「行きたい」が計94%だったが、14年度は100%に達した。その他の東南アジア諸国も、いずれも85%を超えており、東南アジアの人々が日本に注目していることが伺える。